

平成 19 年
7 月 31 日

病害虫発生予報 8 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(穂いもち), 斑点米カメムシ類, イネツトムシ	1
サツマイモ：ナカジロシタバ	2
ナシ：ナシヒメシンクイ	2
ブドウ：褐斑病	3
秋冬ネギ：ネギアザミウマ	3
抑制トマト：トマト黄化葉巻病	4
共通害虫：ハスモンヨトウ	4

【その他の病害虫】	5
水稲, ダイズ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 果樹共通, 秋冬ネギ, 夏秋ナス, アブラナ科 野菜共通, 抑制トマト, 共通害虫	

． 病害虫ミニ情報

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策	7
オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について	8

． 今月の気象予報	10
-----------	----

． テレホンサービス	10
------------	----

029(226)5321, 6131

本文に記載された農薬の登録内容は、平成 19 年 7 月 18 日現在のものです。

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、葉いもちの発生地点率及び発病度は平年よりやや高い。特に県北地域では発生程度の高い水田がある。

気象予報によると、向こう1か月は降水量が平年より多いと予想されている。

[防除上注意すべき事項]

イネの穂がいもち病菌に侵入されやすいのは、出穂14日後位までである。この期間に降雨が続く場合は発生に注意が必要である。

穂いもちを対象とした薬剤防除の適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。上位葉に病斑が進展している水田では防除を徹底する。

水稻の生育は平年より進んでいるため、防除時期が遅れないように注意する。

(7月26日発表の病害虫情報 No.8 参照)

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、水田周辺のイネ科雑草における発生は平年並であるが、本県の水田で最も多く被害を及ぼすクモヘリカメムシの発生が多い地点が確認されている。

水田周辺のイネ科雑草にカメムシ類の生息が認められる地点では、イネの出穂とともにこれらが水田に侵入すると予測される。一部水田ではカメムシ類の侵入が認められている。

[防除上注意すべき事項]

周辺よりも出穂の早い水田では成虫の飛来が集中しやすい。また、出穂の遅い水田では周辺の水田等で増殖した新成虫が侵入することがあるので発生には十分注意する。陸稲においても、水稻と同様に発生に注意する。

斑点米カメムシ類の防除適期は、成虫を対象とした穂揃期と、幼虫を対象とした出穂20日後位までである。

穂揃期に多数の成虫を確認した場合は防除を実施する。その後は幼虫の発生を確認した場合に防除を行う。本年のクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は、8月初めに収穫するコシヒカリで、県南・県西地域では8月10日～15日頃、県北・鹿行地域では8月20日頃である。

成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分注意する。

(7月26日発表の病害虫情報 No.9 参照)

(水稲 続き)

3. イネツトムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、イネツトムシ第2世代幼虫の発生量は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

水田をよく観察し、発生が多い場合は、できるだけ幼虫が小さいうち(幼虫がイネの葉先を巻き始めた時期)に薬剤防除を実施する。

7月下旬から発生する第2世代幼虫を対象に防除を行う。防除適期は8月10日頃までなので、防除が遅れないようにする。

周辺に比べて葉色が濃い水田では、発生に特に注意する。飼料用稲も葉色が濃い場合、発生には注意が必要である。

(7月17日発表の病害虫情報 No.7 参照)

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや遅い	平年並	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年並である。

7月の気温が平年より低めに経過したため、本虫の成育がやや遅れていると考えられる。

気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並で、降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

被害の大きい第3世代幼虫は、9月上旬頃から発生すると予想される。老齢幼虫になると防除効果が劣るので、幼虫発生初期(つる先や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる)の防除に努める。

薬剤散布の際は、幼虫が生息する葉裏までかかるよう丁寧に行う。

(p.7 病害虫ミニ情報参照)

ナシ

1. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

(ナシ ナシヒメシンクイ 続き)

[予報の根拠]

7月下旬現在，被害果は認めず平年並である。
フェロモントラップ（笠間市）への誘殺数は平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

防除暦に基づき，収穫前の防除を行う。収穫前日数に十分注意する。
薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にする。葉液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。
「幸水」で被害果が目立った場合は，「幸水」収穫終了後に「豊水」や「新高」等を対象に防除を行う。

本年は徒長枝の生育が旺盛であるため，防除の際は葉液がよくかかるよう特に注意し，丁寧に散布する。

ブドウ

1. 褐斑病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，発病葉率及び発生地点率は，平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

発病の目立つ圃場では，早急に袋かけを行い，袋かけ終了後，収穫前日数に十分注意して防除を行う。
薬剤散布は，葉液が葉裏に十分かかるように丁寧に行う。

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在，秋冬ネギに隣接している夏ネギにおける被害度，発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

高温乾燥条件が続くと増殖が盛んになるため，発生状況に応じて薬剤防除を行う。
雑草はネギアザミウマの発生源となるため，圃場周辺の除草を徹底する。

抑制トマト

1. トマト黄化葉巻病

[現在の状況]

7月定植トマトでは発病を認めないが、5月定植トマトにおいてはミニトマトを含めPCR検定において発病株を確認した。

本病を媒介するタバココナジラミ類は、野外でも成育・繁殖しており、発生量の増加及びハウス内への飛び込みが懸念される。

ハウス以外にも露地にトマトが作付けされており、本病への感染及び、新たな感染源となる可能性がある。

[防除上注意すべき事項]

発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化させてから処分する。

残さ置き場等で処理が不十分なため、自生しているトマトは新たな感染源になる可能性が高いので、早急に処分する。

設置が可能な場合は、ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置し、タバココナジラミ類のハウス内への侵入を防止する。

タバココナジラミ類は葉裏に寄生するため、薬液は下方から吹き上げるように散布する等、葉裏にも十分かかるよう丁寧に行う。

雑草はタバココナジラミ類の生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。

共通害虫

1. ハスモンヨトウ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

7月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや多い。

[防除上注意すべき事項]

レタスやハクサイでは、結球への食入を防ぐため結球前に防除を徹底する。

ダイズでは、8月下旬に莢内害虫の防除を行うと、ハスモンヨトウの初期密度を下げる効果がある。

圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努める。齢期が進むに従って薬剤の効果は低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。

施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	紋枯病	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ニカメイガ	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
ダイズ	紫斑病	発生量： -	防除適期は開花期の 20 日後頃である。
	鱗翅目幼虫	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
	カメムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	黒星病	発生量：やや多い ～多い	7月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。発病している果実及び葉は，見つけ次第取り除き，土中深く埋める。
	ハダニ類	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。今後，気温の上昇とともに，ハダニ類の発生に好適な条件になる。
	ハマキムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在，被害果を認めず平年並である。
ブドウ	べと病	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。
カキ	炭そ病	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。
	カキノヘタムシガ	発生量：平年並	7月下旬現在，発生を認めず平年並である。7月下旬から8月上旬にかけて第2回成虫が発生するので，8月上中旬に次世代の若齢幼虫を防除する。
クリ	モモノゴマダラノメイガ	発生量：やや多い	7月下旬現在，被害果率は平年よりやや高い。予察灯への誘殺数は平年並～やや多い。「神峰」は，モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。
果樹共通	カメムシ類 (第2回成虫)	発生量：少ない	7月下旬現在，チャバネアオカメムシの予察灯への誘殺数は平年より少ない。ヒノキ林での発生も過去5年と比べて少ない傾向である。
秋冬ネギ	ネギコガ	発生量：やや多い	7月下旬現在，つくば市の夏ネギ圃場で平年より多い発生だが，土浦市のフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
夏 秋 ナス	マメハモグリ バエ	発生量：多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
ア ブ ラ ナ 科 野 菜 共 通	コナガ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，八千代町のフェロモントラップへの誘殺数は平年よりやや少ないが，6月下旬時点での誘殺数は平年よりやや多かったことから，9月頃からの発生に注意が必要である。
	ハイマダラノ メイガ	発生量：平年並	7月下旬現在，笠間市の誘致植物（クレオメ）における発生時期，寄生株率は平年並である。
抑 制 ト マ ト	ヒラズハナア ザミウマ	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。本種は黄化えそ病（TSWV）を媒介するため防除を徹底する。
共 通 害 虫	オオタバコガ	発生量：平年並	7月下旬現在，フェロモントラップへの誘殺数は，平年並である。

サツマイモのナカジロシタバの発生生態と防除対策

ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害します。多発すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べ尽くすこともあり、サツマイモの収量・品質低下につながります。また、サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入することもあり、問題になることもあります。本虫は、老齢幼虫になると急激に被害が拡大しますので、初期の発生に注意して、早めに防除を行うことが重要です。

1. ナカジロシタバの発生生態

ナカジロシタバは年3回発生し、発生量は8月以降に発生する第3世代幼虫が最も多くなります。成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。孵化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して葉脈・葉柄だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中に潜ってマユを作り、その中で蛹になります。

2. 発生状況

本年は、7月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年並です。しかし、本県における被害は、例年8月下旬から9月にかけて拡大します（図1）。特に、夏期の降水量が平年より少なく、気温が平年より高い年は発生が多くなる傾向にあるので、今後の気象や幼虫の発生には十分注意してください。

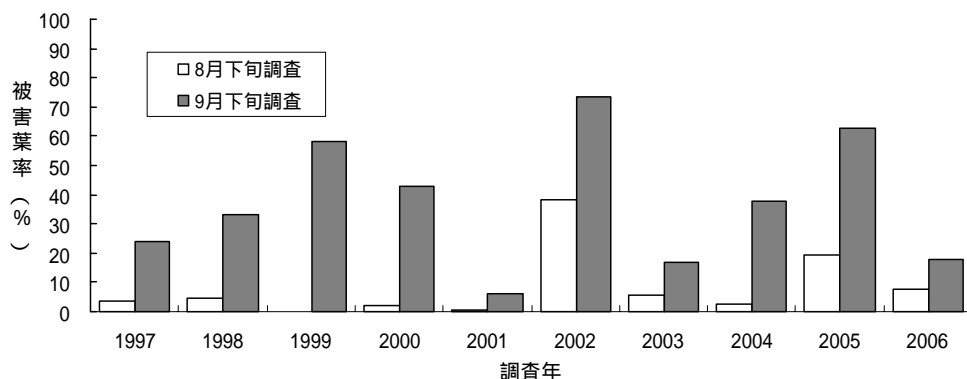


図1 過去10年間のナカジロシタバ被害葉率

3. 防除対策

8月下旬～9月上旬に圃場での発生の様子をよく観察し、若齢～中齢幼虫が発生の中心で、つる先の未展開葉や上位葉に指先ほどの穴が開いた食害痕が点々と認められる時期に、早めに薬剤散布を行います。その際、幼虫が生息する葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。

薬剤に対する抵抗性は現在のところ認められていないので、表1に示す薬剤を適期に散布することで、十分な効果が得られます。なお、IGR剤（ノーモルト乳剤、マッチ乳剤）は、他系統薬剤に比べ殺虫効果の発現に時間がかかることがありますので、早めに散布するようにしてください。

表1 サツマイモのナカジロシタバに登録のある主な農薬（平成19年7月18日現在）

薬 剤 名	希 釈 倍 数	収穫前日数 - 剤の使用回数	有効成分名 - 有効成分の総使用回数
オリオン水和剤40	1,000倍	前 日 - 5 回	アラニカルブ - 5回
ディブテックス乳剤	700～1,000倍	14日 - 4 回	DEP - 4回
トレボン乳剤	1,000倍	7日 - 3 回	エトフェプロックス - 3回
ノーモルト乳剤	1,000倍	7日 - 2 回	テフルベンズロン - 2回
マッチ乳剤	2,000～3,000倍	14日 - 2 回	ルフェヌロン - 2回
ラービフロアブル	750～1,000倍	3日 - 3 回	チオジカルブ - 3回

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を確認のうえ使用してください。また、周辺作物等へ飛散（ドリフト）しないよう十分注意して散布してください。

オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について

オオタバコガは、レタスなどの葉菜類，トマト，ナスなどの果菜類，キク，トルコギキョウ，バラなどの花き類など多くの作物を加害します。また，多くの薬剤に対して抵抗性を獲得しているので防除が難しい害虫です。そこで，主要な薬剤の殺虫効果を確認するため，昨年 8～10 月に県内の現地圃場からオオタバコガの幼虫を採取し，薬液に浸したキャベツ葉を摂食させる方法により，薬剤に対する感受性を検定しました。その結果と防除上の留意点についてお知らせします。

【結果の概要】

- (1) アファーム乳剤，スピノエース顆粒水和剤，プレオフロアブル及びトルネードフロアブルは，補正死虫率が 90%以上となり，高い殺虫効果が認められました。特にアファーム乳剤及びスピノエース顆粒水和剤は，全ての地点において 100%の補正死虫率が得られました。
- (2) ファルコンフロアブルは補正死虫率が 87～100%，オルトラン水和剤，エスマルク DF 及びカスケード乳剤は 83～100%となり，殺虫効果が認められました。
- (3) ラービンフロアブル及びコテツフロアブルは補正死虫率が 77～100%と地点によるばらつきがあり，安定した殺虫効果は認められませんでした。

以上の結果から，オオタバコガに対しては，オルトラン水和剤，カスケード乳剤，ファルコンフロアブル，エスマルク DF，アファーム乳剤，スピノエース顆粒水和剤，トルネードフロアブル及びプレオフロアブルを組み入れた防除体系が有効であると考えられます。

第 1 表 各種薬剤に対するオオタバコガ 3 齢幼虫の薬剤感受性

系統名	薬剤名	希釈 倍数	補正死虫率(%) ^{1) 2)}			
			採集地点			
有機リン剤	オルトラン水和剤	1,000	100	83	100	93
カーバメート剤	ラービンフロアブル	1,000	93	90	100	77
IGR 剤	カスケード乳剤	4,000	96	93	100	83
	ファルコンフロアブル	2,000	100	100	100	87
BT 剤	エスマルク DF	1,000	96	100	97	83
その他	アファーム乳剤	1,000	100	100	100	100
	コテツフロアブル	2,000	100	100	100	77
	スピノエース顆粒水和剤	2,500	100	100	100	100
	トルネードフロアブル	2,000	97	100	100	90
	プレオフロアブル	1,000	100	100	100	97

1) 補正死虫率(%) = {(対照区生存虫数 - 処理区生存虫数) / (対照区生存虫数)} × 100

2) 処理 3 日後の補正死虫率を示した。ただし，IGR 剤及び BT 剤については処理 7 日後の補正死虫率を示した。

供試薬剤は，一部の園芸作物でオオタバコガに平成 19 年 7 月 18 日現在登録があるものです。作物登録の有無及び使用方法は作物によって異なりますので，薬剤防除を行う際は必ず登録内容を確認してください。

【防除上の留意点】

- (1) 圃場をよく観察し、幼虫の早期発見に努めます。新しい食害痕や虫糞の周辺に幼虫がいる可能性が高いので幼虫を見つけ次第捕殺します。
- (2) 果菜類や花き類では、被害果や摘芯・摘花した腋芽、花蕾などに卵や若齢幼虫がついているため、これらは株元に放置せず、圃場外へ持ち出し土中深く埋めるなどして処分することが大切です。また、施設栽培では、開口部や出入り口を防虫ネットで被覆すると、成虫の侵入を防ぎ、高い防除効果があります。
- (3) 幼虫の齢期が進むほど薬剤に対する感受性が低下します。また、中齢幼虫以降になると蕾、果実、結球内に食入するため薬剤がかかりにくくなります。食入前の若齢幼虫のうちに防除を徹底することが重要です。
- (4) 秋冬レタス、キャベツなどの露地野菜の定植期(8月下旬~9月中旬頃)は、オオタバコガの産卵時期と重なります。また、結球前の葉に産卵された場合、結球後に被害が大きくなります。そのため、結球始期前後の防除が特に重要であり、薬剤は発生状況に応じて葉裏や株元にもかかるよう丁寧に散布してください。
- (5) オオタバコガは、多くの薬剤に対して抵抗性が発達しています。新たな抵抗性を発達させないため、薬剤を散布する場合は、系統の異なる薬剤をローテーション散布してください。
- (6) コナガコン-プラスは、オオタバコガに対する交信攪乱効果があり、成虫の発生前から栽培地域全体に設置(100~120本/10a)すると効果的です。ただし、本剤には直接的な殺虫効果はなく、密度が高くなると効果が不十分になるため、薬剤散布を併用することも大切です。

「オオタバコガの薬剤感受性と防除対策について」の第1表を活用する場合は、使用する薬剤の適用内容(作物名、希釈倍数、使用時期、使用回数等)をよく確認してから購入、使用して下さい。

・ 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 7月28日から8月27日)

気象庁(7月27日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は, 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。寒気や湿った気流の影響で一時曇りや雨の日がある見込みです。

週別の気温は, 1週目は平年並または低い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 7月28日(土曜日)から8月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

< 2週目の予報 > 8月4日(土曜日)から8月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

< 3週目から4週目の予報 > 8月11日(土曜日)から8月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

・ テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321, 6131

8月上旬 水稻病害虫の防除対策について

8月下旬 サツマイモ及びダイズ病害虫の防除対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。